

2023年卒
Vol.08

6月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年6月発行)

2023年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、大きな山場を迎えている。コロナ禍で減退した採用意欲に回復基調が見られる中で、内定率をはじめ就職戦線はどのように変化しただろうか。6月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。過去の6月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。

1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は76.9%。前年同期実績(71.8%)を5.1ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の54.3%。前年(47.5%)を6.8ポイント上回る。継続者は45.7%

2. 内定を得た企業の属性

- 「情報処理・ソフトウェア」に内定が集中。文理男女問わず1位に
- 内定企業の従業員規模は、1,000人以上の大企業が6割を占めるも、2年連続で減少

3. 選考試験の受験状況

- ES提出社数(平均14.4社)、筆記試験(10.3社)は前年より減少。面接は増加(8.7社)
- 面接形式は依然WEB主流も、最終面接の「対面」比率は前年より大幅増(41.8%→54.2%)

4. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業数は平均2.7社。これから受験する企業は1.7社。ともに前年と同水準
- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げていく」

5. 未内定者の見通し

- 未内定者の7割(69.1%)は、内定の見通し立たず

6. 内定保持学生の未決定理由

- 「本命の企業がまだ選考中」(43.9%)、「自分に合うかわからない」(22.0%)の順に多い

7. 就職活動の難易度

- 自身の就職活動「厳しい」46.9%。前年(56.2%)より減少し、厳しさは緩和

8. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は85.7%。応募者の68.6%が内定獲得。前年より増加
- 本選考への応募理由「プログラムを通じて志望度が高まった」(77.8%)が圧倒的に高い

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答者数 : 1,208人(文系男子401人、文系女子370人、理系男子297人、理系女子140人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2022年6月1日~5日
- サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は76.9%。先月調査(5月1日、65.0%)からの1カ月間で11.9ポイント上昇し、前年実績(71.8%)を5.1ポイント上回った。今期は序盤から高い内定率を記録。同じく高水準で推移した前年(22年卒)をさらに上回るペースで進行し、選考解禁のこのタイミングで7割台後半をマークした。6月が選考解禁月となった2017年卒以降で、最も高い数字となった。ただ、4月以降、前年同月との差は徐々に縮まってきている(8.3ポイント差→6.6ポイント差→5.1ポイント差)。

就職戦線はこの後、事実上の後半戦へと移っていく。前半戦は内定率の高さが目立ったが、ここから先どう推移していくのか注目される。

内定率を属性別に見ると、文系に比べ理系で高く、理系は男女とも8割に達している。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは63.1%。前年同期(60.0%)を3.1ポイント上回る。

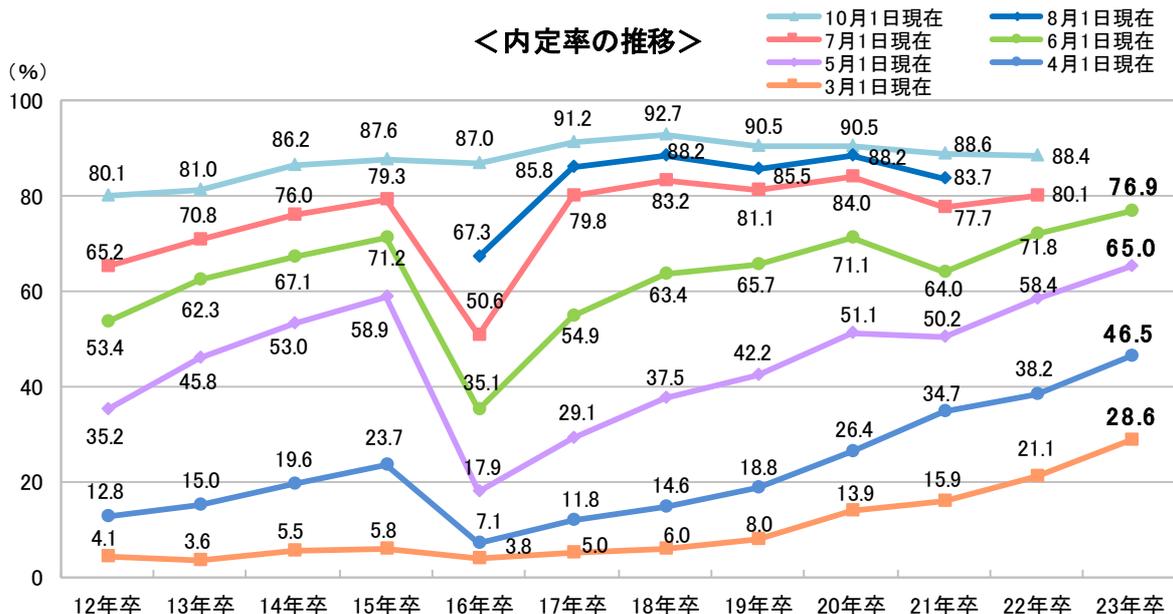
<6月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		76.9 (71.8)	73.6 (64.8)	76.5 (76.5)	80.1 (72.7)	80.7 (77.4)
内定なし		23.1 (28.2)	26.4 (35.2)	23.5 (23.5)	19.9 (27.3)	19.3 (22.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	63.1 (60.0)	54.6 (48.8)	55.8 (48.2)	76.1 (79.8)	76.1 (71.7)
	活動は終了したが複数内定保持	6.9 (5.6)	9.5 (5.6)	7.1 (9.4)	4.6 (2.5)	4.4 (2.8)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.6 (0.6)	0.3 (0.0)	0.7 (0.0)	0.8 (1.7)	0.9 (0.9)
	就職活動継続	29.4 (33.9)	35.6 (45.6)	36.4 (42.4)	18.5 (16.1)	18.6 (24.5)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.4 (2.1)	2.4 (2.2)	2.4 (2.2)	2.4 (2.1)	2.6 (1.9)

※ ()内は前年(6月1日現在)の数値

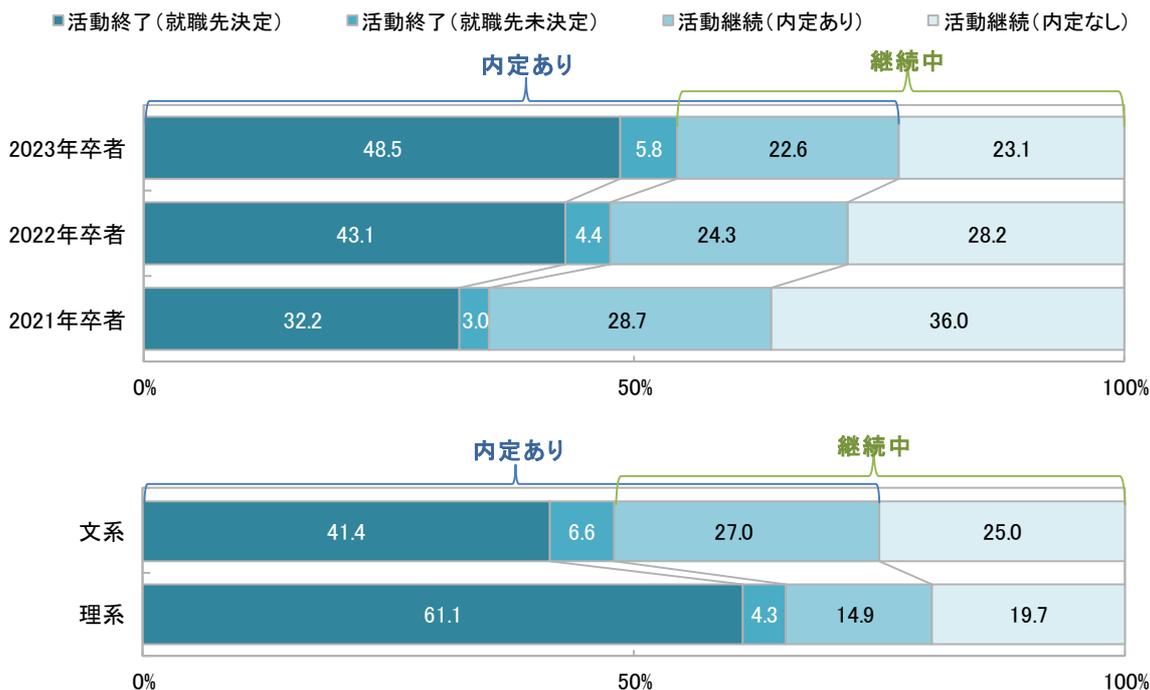


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~23年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒は8月のデータはなし

回答者全員を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 48.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (5.8%) を合わせると、終了者は 54.3% となる。内定率の上昇だけでなく、内定者における就職先決定者の割合も増加したことで、前年同期 (計 47.5%) よりさらに増加した (6.8 ポイント増)。

活動継続者は「内定あり」(22.6%)、「内定なし」(23.1%) を合わせて 45.7%。文系において高く、内定保持者も含め文系学生の過半数 (計 52.0%) が継続中と回答した (理系は同 34.6%)。

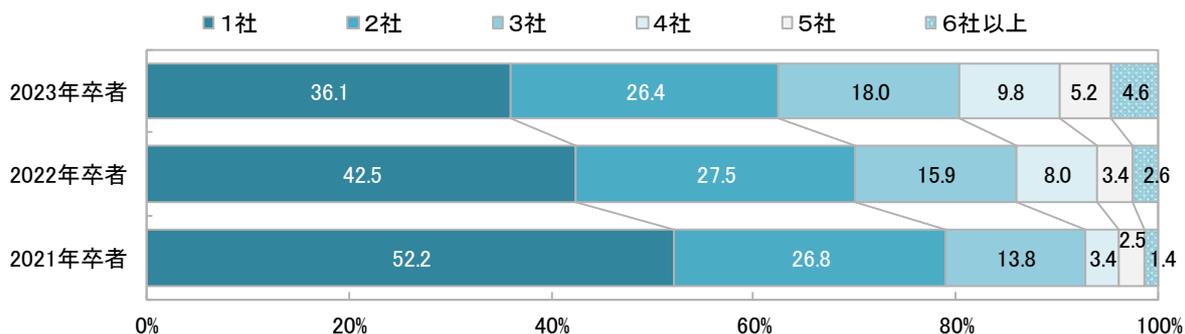
<活動状況の分布>



調査時点で内定を得た学生一人あたりの内定取得社数を詳しく見てみると、「1社」という学生は 36.1%にとどまり、残りの6割以上が複数の企業から内定を得ている。「2社」が26.4%、「3社」が18.0%。4社以上が約2割を占める (計19.6%)。

ここ3カ年で見ても、複数内定の比率は上昇している (計47.8%→57.5%→63.9%)。企業側から見れば内定辞退のリスクが年々高まっており、内定後のフォローの重要性が増している。(志望度が高まったフォロー、逆に下がったフォローについて、9ページに学生の声を紹介)

<6月時点の内定社数の内訳>



2. 内定を得た企業の属性

6月1日現在で内定を得た学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査までに引き続き「情報処理・ソフトウェア」が最も多く、37.7%と内定の集中度合いがかなり高い。文理男女の各属性いずれにおいても1位であり、特に理系では男女とも4割を超えている。

全体の2位は「建設・住宅・不動産」(17.3%)で、3位「調査・コンサルタント」(14.7%)と続く。

<内定を得た業界(上位10業界)>

※6つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 37.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 43.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 45.1
2	建設・住宅・不動産 ② 17.3	建設・住宅・不動産 16.9	その他サービス 18.4	建設・住宅・不動産 22.7	建設・住宅・不動産 21.2
3	調査・コンサルタント ③ 14.7	調査・コンサルタント 16.9	調査・コンサルタント 13.4	電子・電機 21.8	水産・食品 19.5
4	電子・電機 ⑥ 11.3	運輸・倉庫 16.3	情報・インターネットサービス 12.4	自動車・輸送用機器 21.4	精密機器・医療用機器 18.6
5	その他サービス ⑦ 10.9	商社(専門) 15.3	建設・住宅・不動産 11.7	機械・プラントエンジニアリング 18.9	電子・電機 15.9
6	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑪ 9.7	コンビニエンス・GMSストア 13.6	専門店 11.7	素材・化学 17.6	自動車・輸送用機器 14.2
7	商社(専門) ⑨ 9.5	その他サービス 12.5	銀行 11.0	調査・コンサルタント 15.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣 13.3
	自動車・輸送用機器 ⑮ 9.5	専門店 8.8	商社(専門) 11.0	人材サービス・人材紹介・人材派遣 10.5	素材・化学 11.5
9	機械・プラントエンジニアリング ⑬ 9.1	銀行 8.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣 10.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 7.1	医薬品・医療関連・化粧品 10.6
10	情報・インターネットサービス ⑭ 8.6	電子・電機 7.1	コンビニエンス・GMSストア 9.2	エネルギー 7.1	調査・コンサルタント 10.6

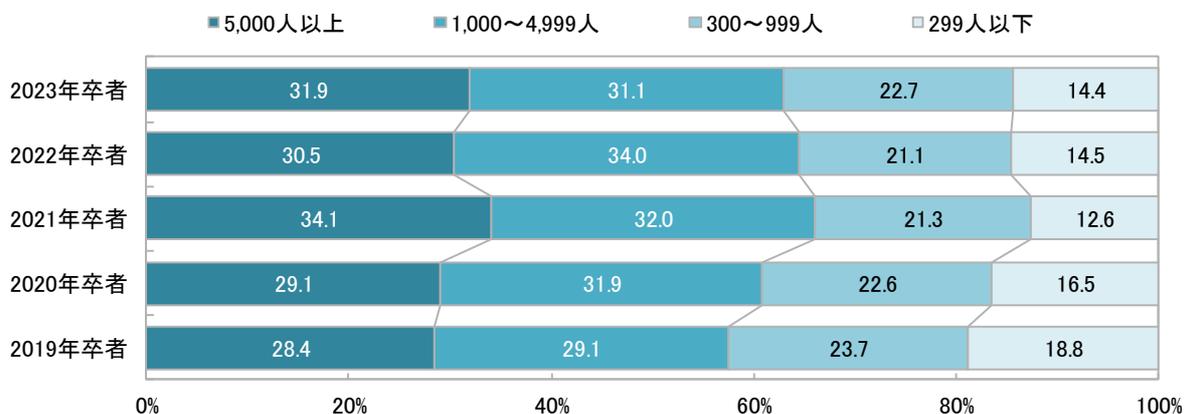
※○の中の数字は前年同期調査の順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

内定取得企業の従業員規模についても尋ねた。「5,000人以上」が31.9%で最も多く、「1,000~4,999人」が僅差で続くなど(31.1%)、大手企業からの内定が6割を占めている(計63.0%)。

ただ、大手企業の割合は2年連続で減少している。内定が集中しているIT業界を筆頭に、中堅中小企業においても採用意欲が高まっており、早期の内定出しが増えていることがうかがえる。

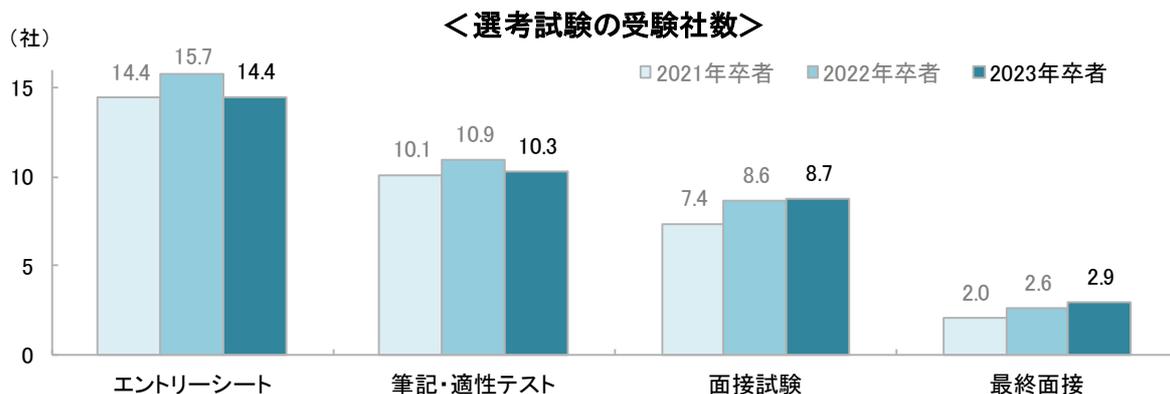
<内定企業の従業員規模>



※各年6月調査

3. 選考試験の受験状況

6 月 1 日時点での選考試験の受験状況を確認したい。エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 14.4 社で、前年同期 (15.7 社) を 1.3 社下回る。筆記試験を受けた社数も前年同期を下回っている (10.9 社→10.3 社)。選考の入口部分の社数は減少したものの、面接試験は微増 (8.6 社→8.7 社)。最終面接に限ると、2.6 社から 2.9 社へと増加した。早期化で次の選考ステップに進むタイミングが早まっているだけでなく、通過率も高まっていると考えられる。

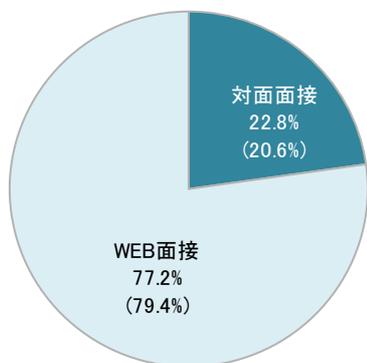


※オンライン形式も含む ※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

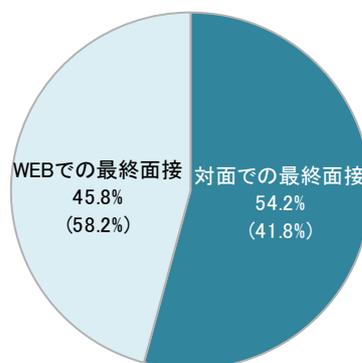
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	14.4	15.7	17.3	15.1	10.6	12.7
筆記・適性テスト	10.3	10.9	12.1	10.4	8.0	9.5
面接試験	8.7	8.6	10.2	9.2	6.6	7.8
最終面接	2.9	2.6	3.1	2.9	2.9	3.0

これまでに受けた面接試験について対面と WEB の割合を尋ねると、対面での面接が約 2 割 (22.8%) であるのに対し、WEB 面接が約 8 割 (77.2%) と、前年同様 WEB が圧倒的に多い。しかし、最終面接に限ると対面が過半数を占める。前年より大幅に増加した (41.8%→54.2%)。コロナ禍で面接もオンライン化が進んできたが、感染状況が落ち着いてきたこともあり、採用の可否を決める最終局面においては、いち早く対面方式に戻す動きが見て取れる。

<対面面接とWEB面接の割合>



<最終面接の受験形式>



※()内は2021年6月調査の数値

4. 就職活動継続学生の動向

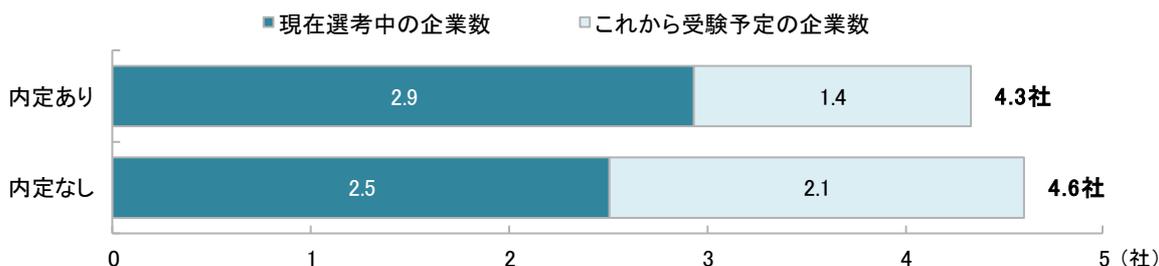
内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (モニター全体の 45.7%) の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均 2.7 社、これから受験予定の企業数は 1.7 社で、ともに前年同期とほぼ同水準。これを内定の有無別に分けて集計してみると、「内定あり」の学生は選考中の企業が 2.9 社であるのに対し、「内定なし」の学生は 2.5 社とやや少ない。未内定の学生は、その分これから受験予定の企業数が多い (2.1 社)。

今後の活動方針についても、内定の有無で違いが見られる。内定を持ちながら活動している学生は、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が半数近くを占めるが (45.4%)、未内定学生は 2 割未満にとどまる (19.7%)。未内定者では「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」という方針を立てている学生が最も多い (35.5%)。実際、今後のエントリー予定社数も未内定学生の方が多く、積極的に受験企業を増やそうという意欲が感じられる。

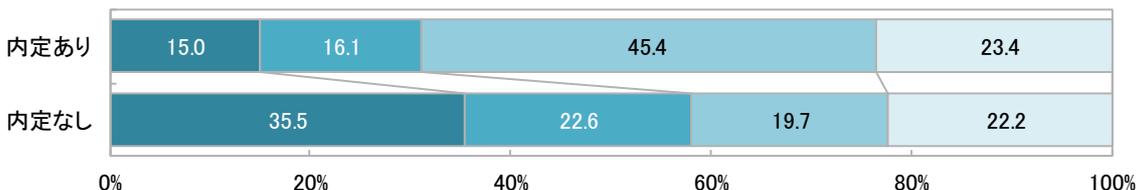
<持ち駒企業数>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	2.7	2.8	3.2	2.8	1.8	2.6
これから受験予定の企業数	1.7	1.9	1.9	1.7	1.4	1.6

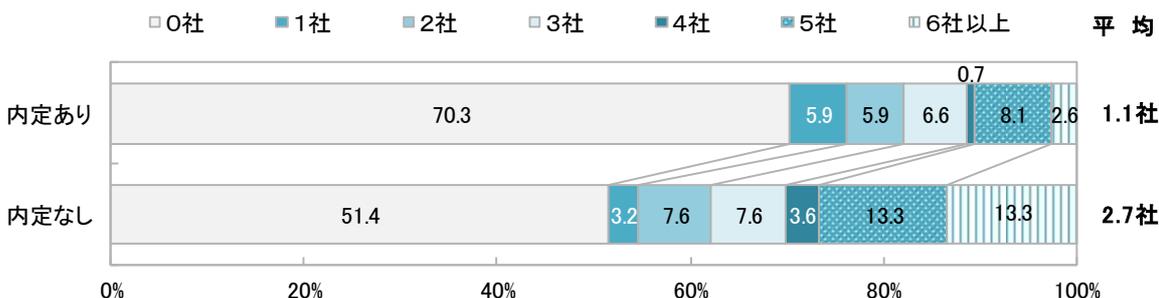


<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

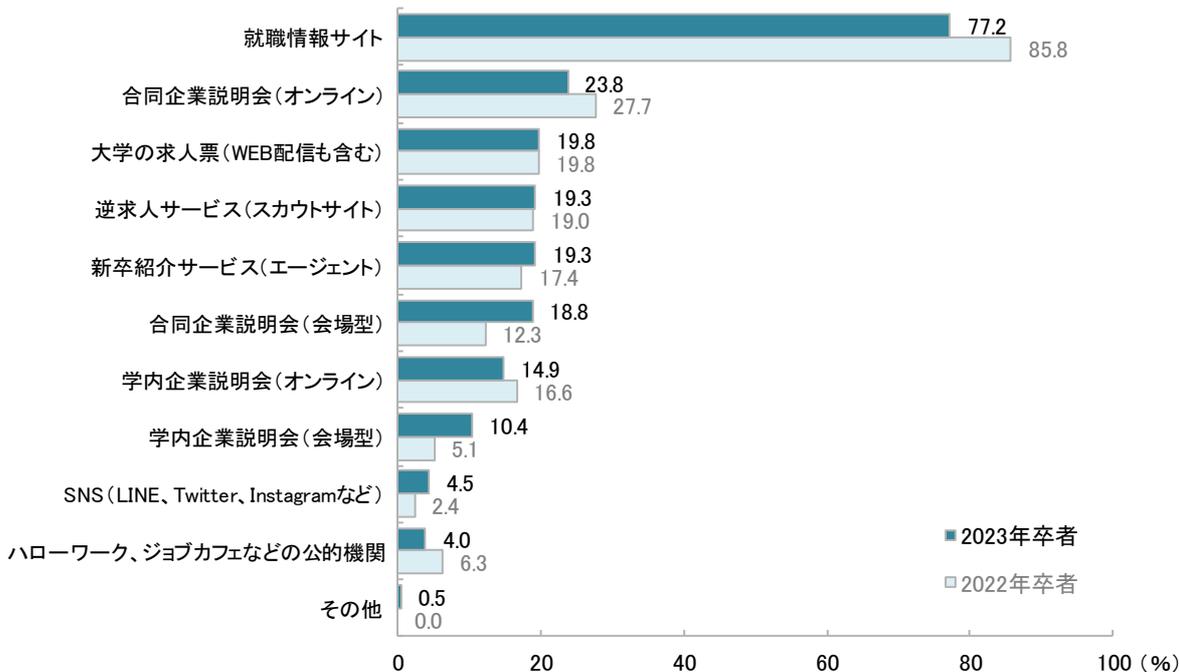


<今後のエントリー予定社数>



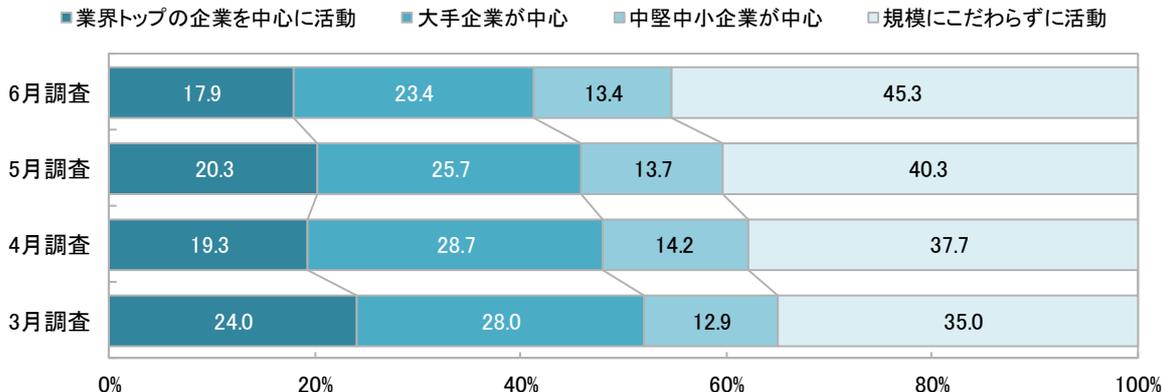
新たな企業を探す手段（ツール）は「就職情報サイト」が7割強と圧倒的に高く（77.2%）、ここに「合同企業説明会（オンライン）」（23.8%）とWEBの活用が続く。一方で、「合同企業説明会（会場型）」、「学内企業説明会（会場型）」が、それぞれ前年同期よりポイントが増加。対面形式活用の動きが広がっていることがわかる。

＜新たな企業を探す手段＞



就職活動の中心としている企業規模について、3月調査からの推移をまとめた。採用広報開始直後の3月調査時点では、半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計52.0%）、6月調査では4割程度まで縮小（計41.3%）。代わりに「規模にこだわらずに活動」する学生が徐々に割合を増し、この6月調査では4割台半ばに達した（45.3%）。就職戦線は山場を越え、ここから先は企業規模にとらわれずに活動をする動きがさらに増えると推測される。

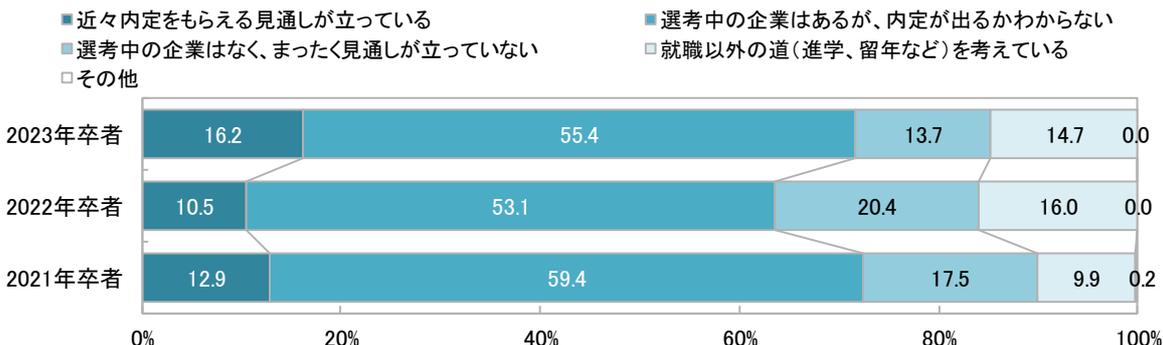
＜就職活動の中心としている企業規模＞



5. 未内定者の見通し

まだ内定のない学生に、内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」は 16.2%で、前年同期 (10.5%) を上回る。ただ、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」(55.4%) で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」(13.7%) を足し合わせると 69.1% になり、未内定者の約 7 割が先の見えない状況にあるようだ。高水準の内定率の一方で、厳しさも感じられる。

＜未内定者が内定を得る見通し＞



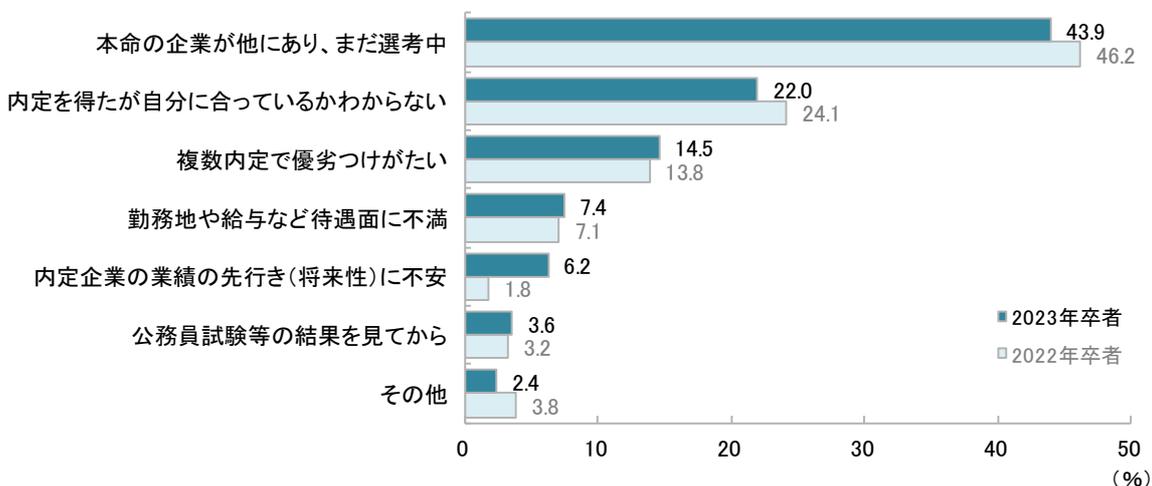
■未内定の学生の声

- 最終選考で落ちたりして、思うように進んでない。 <文系男子>
- 想像していたよりも長く厳しい活動であると感じています。 <文系女子>
- 内定をもらっている企業がないため、進学をするか迷っている状況。 <理系男子>

6. 内定保持学生の未決定理由

内定取得学生のうち就職先を決めていない者 (モニター全体の 28.4%) にその理由を尋ねると、最も多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で (43.9%)、本命企業の結果次第という状況だ。2 位以下は「自分に合っているかわからない」(22.0%)、「複数内定で優劣つけがたい」(14.5%) と続き、内定は得たものの承諾を迷う学生が一定数いることがわかる。企業には、こうした学生の不安を解消し、意思決定を後押しするためのフォローが求められている。

＜内定保持者が就職先を決めていない理由＞



■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

- リクルーターとしてお世話になった社員の方から、お祝いのメールをいただいたこと。 <文系女子>
- 今の悩みにしっかりと向き合ってくれて、内定を承諾させるためだけでない面談の形をとってくれたことがうれしかった。 <文系男子>
- 内定者同士の交流会を開催していただき、入社までの不安や悩みを共有することで、安心感を得ることができました。 <理系男子>
- 私の想定するライフスタイルに近い働き方をしている社員との面談の機会をいただけたこと。 <文系女子>
- 勤務地や職場環境など、内定前には聞きづらいことに回答してもらえるフォローアップイベントがあった。 <理系男子>
- 会社見学の機会をいただき、初めて対面で会うことができた。社員との座談会では、会社や働き方のイメージがアップした。 <文系女子>
- 6月1日の内々定式にて多くの内定者や社員の方々と交流会があり、本当に楽しかった。 <文系男子>
- 内定者向けのLINEアカウントに登録でき、企業と気軽にやり取りできたり、より企業について知れる内定者向けのイベントを案内してもらったりしたこと。 <文系女子>
- 明るく和やかな雰囲気ですべて接してくれ、自分が必要だと言ってもらえ、さらに志望度が上がった。 <理系女子>

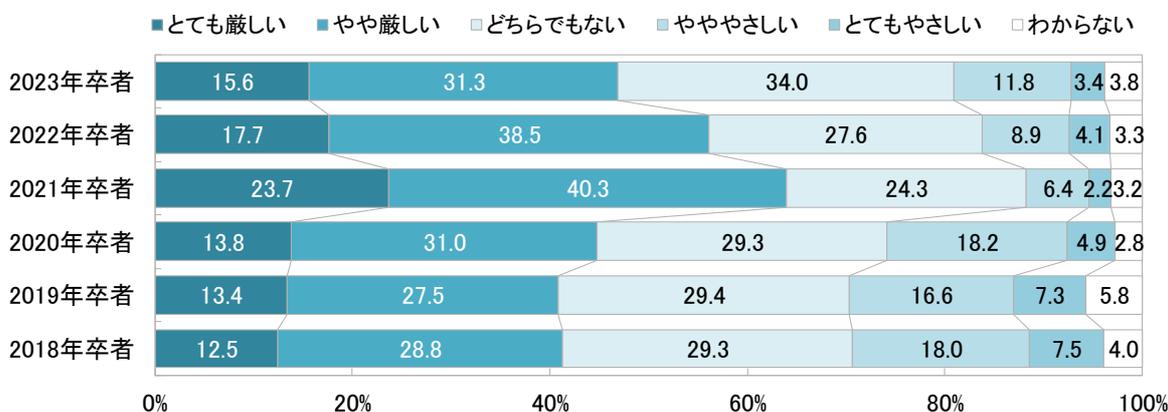
■志望度が下がった、不快に感じた内定者フォロー

- かなり頻繁に電話をされたり、面談を設けられたりした際は鬱陶しいと感じた。 <文系男子>
- 就活を継続したい理由を伝えると、反論された。また第一志望企業の悪口を言われた。 <理系男子>
- 内定承諾期限までに何の接触もなかったため、志望度は下がった。 <理系女子>
- 仕事内容ではなく、社風ばかりアピールしてきて、自分が求めていることが知れなかったこと。 <文系女子>
- 交通費が出ない社内見学。大阪から関東に行かないといけませんが、断りにくいので億劫。 <文系男子>
- 後付け推薦を求められた時は不快に思った。 <理系男子>

7. 就職活動の難易度

ここまでの就職活動の感想を尋ねた。自身の就職活動を「厳しい」と感じている学生は、「とても厳しい」(15.6%)、「やや厳しい」(31.3%)を合わせて46.9%で、「やさしい」の15.2%を大きく上回る。しかし、経年で見ると、2021年卒者で「厳しい」が急増したのちに2年連続で減少し、コロナ禍前の水準に近付きつつある。

<現時点の就職活動難易度>



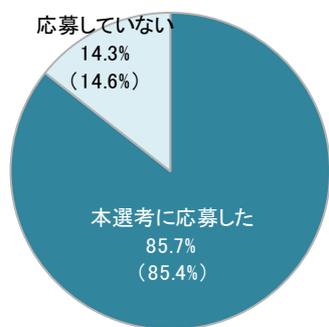
※各年6月調査

8. インターンシップ参加企業の本選考への応募と内定

インターンシップ等の参加経験がある学生に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。「本選考に応募した」との回答は8割超(85.7%)で、大半が応募経験を持つ。本選考応募社数の平均は6.2社で、インターン参加社数の約半数。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は68.6%と7割に近く、前年調査(64.3%)を上回る。内定社数の平均は2.2社で、複数のインターン参加企業から内定を得る者も少なくない。

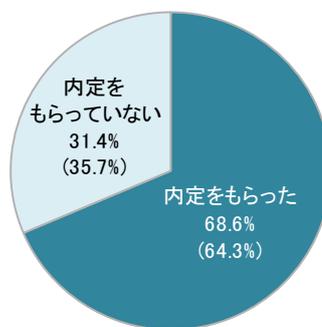
本選考に応募した理由を尋ねると、「インターンシップを通じて志望度が高まった」が8割近くに上り(77.8%)、圧倒的に高い。インターンシップに参加することで企業理解が深まり、就職先として意識するケースが多いことが表れている。次いで「早期選考だった」(52.9%)、「インターンシップ参加学生の優遇があった」(36.2%)が続き、インターン参加学生を本選考へつなげる企業の動きが恒常化していることが読み取れる。

＜インターン参加企業の本選考への応募＞



※インターンシップ参加経験者が回答
※()内は2021年6月調査の数値

＜インターン参加企業からの内定＞



※インターンシップ参加企業の本選考応募者が回答

	インターン参加社数	プレントリー社数	本選考応募社数	内定社数
2023年卒者	12.1社	9.2社	6.2社	2.2社
2022年卒者	10.7社	8.6社	6.5社	1.9社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

＜本選考に応募した理由＞

